



白熱！バレーボール大会

4学期制のパラオの公立学校は、9月中旬から3週間のインターセッション（学期休み）に入りました。毎年、このインターセッションで行われているのが学校対抗のバレーボール大会です。基本的に各学校の6～8年生（日本の小6～中2まで）が集まってチームをつくり、男子の部・女子の部・男女混合の部と3つのカテゴリーで試合を行います。パラオ人はバレーボールが大好きなので、学校に行くと休み時間にみんなで円陣パスをしています。至近距離でスパイクを打ったりもするのでケガする人が出ないかヒヤヒヤしますが、学年・性別関係なくみんな楽しく遊んでいるのが印象的です。

大会は、パラオのバレーボール連盟の人たちが審判をしてくれます。どの学校もかなりレベルが高く、激しいラリーが続いていたり、男子ではジャンプサーブを決めている子もいました。パラオの小学校には部活動はありませんが、こういった大会などに向けた練習で技術を磨いています。

他の学期休みにはバスケットボール・野球・サッカーの大会がそれぞれ行われています。どのスポーツ大会でも自分の学校の応援だけではなく、いいプレーに大きな歓声がかかるのがパラオの良いところです。



【パラオ日記】

★今月初め、教育省のチーフが退職されるということで、リタイアメントパーティーが行われました。パラオでは定年を迎えた誕生日をもって退職となるため、年に数回、退職する人のパーティーが行われています。（日本では、年度末の3月で退職というところが多いです。）飾りつけは一から自分たちで、料理は持ち寄り色んなお店からテイクアウトしての豪華なパーティーでした。ただ、パーティーは18時からと聞いていたのに、始まったのは20時から…(笑)パラオではイベントなどが時間通りに始まらないのは“当たり前”のこと。パラウワントタイムでのんびりと時間を過ごすのがパラオ流です。



♪料理には、豚の丸焼き1頭が…パラオではよくお祝い事の際に出てきます。
♪教育省のスタッフがダンスでお祝い！こちらもお祝い事やイベントでは、みんなでお揃いのTシャツを着てパラウワントダンスを踊るのが恒例です。

Let's think together!

右の写真は、私が最近パラオで訪れた場所です。さて、これは何の写真だと思いますか。ヒントは、生活していると必ず出てくる〇〇です！



気になる！パラオのごみ事情とは？

パラオは人口2万人以下のとても小さな国ですが、『足りないよりは余る方がよい』という文化？が根付いていることもあり、毎日大量のごみが出ています。また、家庭ごみはほぼ分別されることなく家の近くのドラム缶に捨てられ、最終的には埋め立て処分場（パラオ語で『ゴミステバ』）に運ばれます。私が最近訪れたのは、アイメリークという地域にある埋め立て処分場で、写真はその様子です。見えにくいですが、白い波のようなものが捨てられたごみです。ここは前に使用されていた埋め立て処分場がいっぱいになったことで2021年2月から新しく使用が開始されました。25年以上使われる予定ですが、既にものすごい量のごみが捨てられていました。



👉 環境教育隊員が同僚と作成した現在のゴミステバの模型です。既に、半分がごみで埋まっていることが分かります。



＼＼分別も少しずつ広がっています！／／



👉 まだパラオ全域で行われているわけではないですが、ICETT さんという日本の企業も関わって、少しずつ分別やリサイクルが進められています。分別されたプラスチックごみは前号で紹介したリサイクルセンターに運ばれ、溶かされ、発電のための再生油になります。ちなみに缶やペットボトルをリサイクルセンターに持ち込むと1本5セント（5円くらい？）で引き取ってくれます。パラオの人々に『分別』『リサイクル』の意識が広まるよう、色んな取り組みがされているのです。